

研究課題名	高齢者の上部胃癌に対する噴門側胃切除術と胃全摘術の後向き観察研究
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 外科 氏名 井ノ口 幹人
研究期間	令和 2 年 9 月 ～ 令和 4 年 8 月
研究の意義・目的	上部の進行胃癌に対しては胃全摘が標準治療であるが、高齢者においては術後のQOL低下を目的に縮小手術である噴門側胃切除術を行うこともある。噴門側胃切除術は胃全摘に比べて体重減少が少ない、ヘモグロビン低下が少ないなどの利点が報告されている。しかし噴門側胃切除術は逆流症状を防ぐために再建法が複雑になる。近年は高齢者の胃癌手術が増えているが、高齢者における噴門側胃切除術の有用性については報告は少ない。75歳以上高齢者の上部胃癌における噴門側胃切除術と胃全摘術について短期、長期的成績を比較検討する。
研究の方法 (対象期間含む)	武蔵野赤十字病院単独・後向き観察研究。症例群は噴門側胃切除術、対照群は胃全摘術とする。電子カルテで情報が得られる2011年1月1日から2020年8月31日まで当院で上部胃癌に対して噴門側胃切除または胃全摘術を施行された75歳以上の症例を対象とする。主要評価項目は術後合併症、1年後の術後体重減少率。副次的評価項目は術後の手術時間、出血量、術後1年目および2年目の血液検査（ヘモグロビン、アルブミン、ビタミンB12）、術後1年目の内視鏡的逆流性食道炎の有無、術後1年目および2年目の逆流症状の自覚、無再発生存期間。
①試料・情報の利用 目的及び利用方法 (匿名加工する場合や 他機関へ提供される場 合はその方法含む) ②利用し、又は提供す る試料・情報の項目 ③利用する者の範囲 ④試料・情報の管理 について責任を有す る者の氏名又は名称	①電子カルテから下記の情報を収集する。研究対象者には研究用IDを割り振り、氏名と研究用IDの対応表を作成する。元データからは、氏名を削除し、研究に用いる。研究期間を通して対応表ファイルはパスワードをかけ、医局2にあるパスワードロックのかかるスタンドアローンのパソコンで厳重に保管する。②患者基本情報（年齢、性別、身長、体重、併存疾患、術後の自覚症）、手術記録、術後の診察記録、術後の内視鏡検査、術前後の血液検査（ヘモグロビン、アルブミン、ビタミンB12）病理組織検査の結果（深達度、リンパ節転移、ステージ）、予後情報（生存確認日、再発確認日）③武蔵野赤十字病院・外科外来・医局内④武蔵野赤十字病院外科部長、井ノ口幹人
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 外科 氏名 井ノ口 幹人 TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525